



2024(令和6)年7月25日発行

発行/大阪大学医学部附属病院広報委員会(総務課) 住所/〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-15 TEL / 06-6879-5111(代表)

QRコードから本院ホームページをご覧ください

https://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp

禁転載(この紙面は再生紙を使っています)

ウェルコネ 患者支援アプリwellcneを活用しよう

患者支援アプリ wellcne

すべての機能を無料で使えます!

これ全部、ウェルコネが解決します!

ウェルコネはあなたのスマホと病院のシステムを連携することで、スムーズな通院をサポートし、ゆたかにくらしに役立ちます。

CHECK! アプリのインストールはこちらから!

お問い合わせ窓口 ▶ プラスメディサポートデスク

0120-120-075 9:00~18:00 休業年初を除く

support@plus-medi-corp.com

株式会社 プラスメディ(SMBCグループ)

東京都千代田区神田神保町2-5-11 神保町センタービル6階

PHR機能では、阪大病院の2016年以降の「処方」「検査」データが連携されています。また、これらの情報は、アプリで表示されるQRコードを使って、患者さんが希望する第三者と共有することができます。患者さん及びご家族等で情報共有いただき、日々の健康管理にお役立てください。今後、データ連携

できる医療情報を増やすことで、より一層の医療の円滑化、発展につなげていきたいと考えています。

本院とwellcne(ウェルコネ)の開発事業者である「+medic(プラスメディ)社は共同研究契約を結び、統合診療棟の開院に向けて新たな通院支援機能の開発を進めていきます。診察券をデジタ

QOL向上に寄与

大阪大学医学部附属病院が採用している患者支援アプリ・wellcne(ウェルコネ)には、患者さんの「通院支援機能」とQOL(クオリティ・オブ・ライフ)の向上を支援する「PHR機能」(Personal Health Record: 個人の健康・医療・介護に関する情報)が搭載されています。

通院支援機能には「時間短縮・混雑緩和」と「円滑なコミュニケーション」を目的として、さまざまな便利機能が展開されています。

マスク着用をお願い

私たちの隣に
とても感染症に弱い方がおられます
マスクの着用をお願いいたします

この病院には、病状や治療により免疫力が落ちた方がたくさんおられます。待合室でのあなたの隣、向かいの患者さんがそうかもしれません。少しでも正しいマスク着用によりウイルス拡散の可能性を下げてください。よろしくお願いいたします。

大阪大学「ワニ博士」

アプリのメリット

時間短縮・混雑緩和

- ①診察の待ち順をアプリで確認することが可能です。診察の5番前からPush通知により呼び出し通知が届きますので、何処にいても安心です。
※神経科精神科・眼科・麻酔科・放射線科は利用できません。
- ②院外処方箋をスマートフォンで写真撮影後、アプリ内に登録されている調剤薬局(約6万店)に処方箋情報を事前送信することにより調剤薬局での待ち時間が大幅に短縮されます。
※調剤薬局到着後、院外処方箋本紙を提出してください。
- ③アプリ及びクレジットカード情報を登録されている外来患者さん向けにアプリによるオンライン決済(クレジットカードによる後払い)機能を2024年7月から展開しています。料金計算窓口(後払い専用レーン)に外来基本カード等の書類を提出いただければ、内容確認作業後は、料金計算を待たずにご帰宅が可能となります。
※これまで展開してきましたクレジットカードによる後払いサービス(待たずに「ラク〜だ」)は2024年6月をもって終了しました。
※アプリ内にクレジットカード情報の再登録が必要です。
※診療費等の料金計算が確定した日の夜間にクレジットカードによる決済が行われます。
※医療証等をお持ちの患者さんは、ご利用いただけない場合がございます。

円滑なコミュニケーション

- ①受診予約確認機能として、「次回受診予約確認」「次回受診予約リマインド」「メモ機能」が搭載されており、受診忘れ防止に役立ちます。
- ②病院からの「お知らせ」を受信する機能が搭載されています。「未読」の場合は再度送信させていただくなど、患者さんとのコミュニケーション手段の選択肢が増えます。

インストールキャンペーン

只今、患者支援アプリwellcne(ウェルコネ)のインストールキャンペーンを展開中です。ご登録いただいた方にクーポンを配布しています。

外来中央診療棟の1階と2階の特設ブース、ポスター、チラシにてご案内していますので、この機会に特設ブースにお立ち寄りいただき、患者支援アプリwellcne(ウェルコネ)のご登録をお願いいたします。

2024年4月~2024年9月

最大100円OFF

ウェルコネアプリのインストールはこちらから



岩崎朋之看護部長おすすめ / 初夏の和風御膳

メニュー(一例)

- 夏野菜の天ぷら
- モロヘイヤのおひたし
- すまし汁
- みょうがご飯
- デザート

6月25日に岩崎朋之看護部長おすすめ「初夏の和風御膳」を実施しました。看護部長の「季節の夏野菜を使った天ぷら」とのリクエストから、メニューを考案しました。旬の野菜のなす、プチトマト、ズッキーニなどを取り入れることで、色鮮やかな天ぷらとなりました。また、夏でも食べやすいように、さっぱりとしたモロヘイヤのお浸しや、みょうが入りの炊き込みご飯を組み合わせました。患者さんからは「天ぷらが付いて嬉しかった。料亭かと思った」「全部美味しかった。レシピを教えてください」など、たくさんの嬉しいご感想をいただきました。

病院再開基金への ご寄附のお願い

本院は、良質な医療を提供すると共に、医療人の育成と医療の発展に貢献するという使命を果たすべく、令和7年春の運用開始を目指し病院再開基金を行っています。本事業には大学病院でしかできない臨床医学研究・開発など将来の医療に必要な部門の整備も含まれています。

診療機能・未来への医学の研究開発機能のさらなる充実を図るため、今般、「大阪大学医学部附属病院再開基金」を、大阪大学未来基金に立ち上げました。再開基金のコンセプトは、「Futurability待ち遠しくなる未来へ。」です。何卒、本事業の趣旨にご賛同いただき、ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

▼詳しくはこちらをご覧ください

大阪大学 未来基金



歩行者ルートのご案内

立体駐車場から総合受付まで

工事のため、患者用駐車場からの歩行者ルートが変更となります。ご迷惑をおかけしますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。送迎の際、正面玄関前での乗降をお勧めいたします。

歩行動線

患者用立体駐車場 EV

医学部 坂道注意!

医学部

出入口 7:00~20:00

ホスピタルパーク

★誘導員配置中
ご不明な点があればお声かけください。

病院敷地内の交通渋滞緩和のため
公共交通機関でのご来院をご検討ください。

統合診療棟の建設工事 モデルルーム確認会 実施しました

外来診察室入口扉

- 診察室前の共用部廊下の壁は扉・手すりとのコントラストのある落ち着いた色。

診察室室内

- 緑系色のアクセントカラーを用いた1、2階の爽やかな外来診察室。

令和7年5月オープン「統合診療棟」の建設工事に合わせて、工事中の建物内に診察室や病室のモデルルームを仮設し、確認会を実施しました。

診察室・検査室は部屋のレイアウトにあわせ、アクセントカラーを使い、色どりのある室内空間としています。診察室前の床は短冊形タイルの「BLUE GREEN TILE」を使って、ナチュラルで爽やかさと穏やかさを感じさせる待合空間となっています。深い森の中や緑が映り込んだ水をイメージさせる青緑系のグラデーションカラーで、緑化や人の動きとも連動するパターンとなっています。他にも工夫を凝らした病室やトイレを確認しました。

PHOTO ホスピタルミニ・ニュース TOPICS

患者を救う未来の医療を生み出すために



本院では、医療の発展に貢献するため、医療機器開発者に実際の医療現場を観察してもらう「臨床現場観察支援プログラム」を実施しています。本プログラムを行うにあたり、診療の場に大学・医療機器関連企業の研究者が立ち会う場合がありますが、診療に支障がないよう十分に配慮いたします。ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

小児医療センター 春の遠足



子どもたちは、満開の桜、ぽかぽか陽気、澄んだ青空の下、お花見、四つ葉のクローバー探し、シャボン玉、水鉄砲、風船テニス、フリスビーなど思い思いに、屋外でのひとときを楽しみました。

阪大病院がんサロンの実施報告



がん相談支援室では、5月21日に自由にご参加いただける「おしゃべり会」を開催しました。ご参加の方からは「他の患者さんの経験談が参考になった」「辛いのは自分だけではないと感じた」などの感想をいただきました。

特定行為研修5期生の研修が始まりました



特定行為とは、医師が行っている医行為の一部を看護師が行うものです。人工呼吸器の操作、点滴の調整、動脈の採血、傷の処置などが該当します。患者さんの病状に応じたタイムリーな治療やケアを実践するために、理論や実技を学びます。今年度は大阪府以外の広い地域からも研修生が集まり学びを深めています。

手指衛生遵守率で3病棟を表彰



2023年度の手指衛生遵守率の高かった3病棟を病院長、看護部長、感染制御部長で表彰し、部署スタッフにバッジを授与しました。



呼吸器外科

患者さんの負担が少ない肺がんの低侵襲手術 高難度の症例を含め全アプローチに対応

呼吸器外科は、胸部のうち心臓と食道以外の臓器の疾患を扱います。医師は常勤6人と大学院生8人、専攻医ら病棟医6人の計20人体制で、肺がんをはじめ縦隔腫瘍、転移性肺腫瘍、気胸、重症筋無力症などの患者さんを診療しています。2023年の全身麻酔手術症例は約450件でした。最も多い肺がんは約1500件、縦隔腫瘍は約80件であり、年々増加しています。患者さんに負担の少ない低侵襲手術の実施が知られたことや、他の病院では対処の難しい進行がんの患者さんの紹介が増えているためと考えています。肺がん手術は、胸を大きく切る開胸手術が主流でしたが、2000年ごろから、胸を複数箇所小さく切開し、先端にカメラのついた胸腔鏡を使う手術が増え、今では7、8割を占めます。画像の精度が上がり、手術用ロボット技術の進歩もあって、より精密な手術ができるようになりまし。最近では症例に応じて3、4センチの一つの切り口だけで行う単孔式の胸腔鏡手術やロボット手術を実施しています。傷が少なく小さいほど、術後の痛みは少なく、回復も早くなり、退院までの期間も短縮できます。また、早期肺がんに対しては、以前のように肺葉という大きな領域でなく、がんを治すために必要な部分を小さく取る「区域切除」が増えていきます。肺機能をできるだけ温存することによって、手術後の患者さんの日常生活への影響を軽減することが期待されます。ただし、がんの根治性を担保するため、病状によっては最初から開胸手術を選択する場合もあります。さらに、進行肺がんに対して、呼吸器センター（呼吸器内科と共通病棟）で診療料を超えた密な連携により最新の集学的治療を行っています。心臓血管外科をはじめとする他の外科領域と共同で手術を行うこともあります。本院は日本初の肺がん手術（1988年）や脳死肺移植の1例目（2000年）を成功させた歴史を持つ肺移植実施施設です。低侵襲手術に限らず、他の病院で扱えない高難度な症例や開胸を含む拡大手術、新しい術式など全てのアプローチに対応できるのが特徴です。他の診療科との連携による総合力も備えています。他の病院であきらめた方の「最後の砦」としての役割を果たしたいと考えています。

適切な治療を受けられるよう 薬剤師が処方提案



調剤業務は機械を導入して効率化

日本の保険医療で認められた薬は約18000種類あり、本院ではそのうち約19000種類を採用薬として購入、管理しています。薬剤部では患者さんが必要とするタイミングで使えるようこれらの薬を適切な温度・湿度、遮光条件やセキュリティ環境のもとで管理し、医師からの依頼に基づきタイムリーかつ正確に払い出しています。薬剤部の業務は大別すると、医薬品を直接扱う対物業務と、グで使えるようこれらの薬を適切な温度・湿度、遮光条件やセキュリティ環境のもとで管理し、医師からの依頼に基づきタイムリーかつ正確に払い出しています。薬剤部の業務は大別すると、医薬品を直接扱う対物業務と、患者さんや医療スタッフを対象とする対人業務に分けられます。対物業務については近年、自動錠剤分包機や散薬自動調剤ロボット、注射剤自動払い出し機などを積極的に導入することで業務の質を維持しながら効率化を図っています。一方の対人業務では、医師や看護師等の他職種と協働するチーム医療において、個々の患者さんが適切な薬物治療を受けられるよう、処方確認と医師への処方提案、患者さんや医療スタッフへの情報提供などが中心になっています。さらに、近年は医療スタッフの働き方改革が求められるなかで、従来は医師が行っていた処方の変更や検査オーダーなども一定のルールの下で薬剤師が行うことで、医師の業務負担軽減にも努めています。本院に入院する患者さんの多くは、入院前から様々な薬を使用されており、入院目的によっては薬を中止していたりすることもあります。薬剤部

患者さんや医療スタッフを対象とする対人業務に分けられます。対物業務については近年、自動錠剤分包機や散薬自動調剤ロボット、注射剤自動払い出し機などを積極的に導入することで業務の質を維持しながら効率化を図っています。一方の対人業務では、医師や看護師等の他職種と協働するチーム医療において、個々の患者さんが適切な薬物治療を受けられるよう、処方確認と医師への処方提案、患者さんや医療スタッフへの情報提供などが中心になっています。さらに、近年は医療スタッフの働き方改革が求められるなかで、従来は医師が行っていた処方の変更や検査オーダーなども一定のルールの下で薬剤師が行うことで、医師の業務負担軽減にも努めています。本院に入院する患者さんの多くは、入院前から様々な薬を使用されており、入院目的によっては薬を中止していたりすることもあります。薬剤部

本院では、以下のとおり見学会を開催いたします。普段は見ることのできない場所の見学や最先端の医療に触れるチャンスですので、お気軽にお申込みください。

- 実施日時 10月21日(月)13時10分～16時20分
●申込締切 9月10日(火)必着
●対象者 一般市民(成人、個人)
●募集人員 15人
●申込方法 必要事項①氏名 ②性別 ③年齢 ④郵便番号 ⑤住所
⑥電話番号 ⑦あなたが阪大病院に抱くイメージ ⑧見学を希望する理由を明記のうえ、ハガキまたはメールによりお申込みください。

お電話での申込みはできませんのでご了承ください。(※いただいた個人情報は本見学会以外の目的には使用いたしません。)

送付先 〒565-0871 吹田市山田丘2-15 大阪大学医学部附属病院総務課広報評価係 E-mail: ibyou-soumu-kouhyo@office.osaka-u.ac.jp

- 見学場所 感染制御部による手洗い講習、臨床検査部、病理部、薬剤部、ベッド洗浄見学、病院再開発現場見学
●決定通知 応募者多数の場合は抽選により決定し、参加の可否をハガキでお知らせします。
●注意事項 見学では、かなりの距離を歩きます。階段の昇り降り等がありますので、歩きやすい靴でお越し下さい。院内では、マスクを着用願います。

感染症対策に関するお知らせ 当日は発熱・咳・吐き気・下痢の症状がないなど慎重な健康観察の上ご参加ください。また、当日受付時に検温および体調に関する確認を実施いたします。その結果、ご参加いただけないことがありますのでご了承の上お申込みください。



大阪大学「ワニ博士」

阪大病院を見学しませんか

では現在、入院当日に患者さんと面談し、普段使いの薬を確認させていただいています。令和7年5月の統合診療棟の開院に合わせて入院前に確認を行うよう手順を変更することで、入院中に必要な薬の準備を薬剤部で事前に行ったり、中止薬の中止漏れによる手術の延期等が生じないよう確認を強化する取り組みを進めています。なお、普段から地域の薬局で薬を受け取っておられる患者さんには、入院前に薬局をご訪問いただき薬の確認や整理をお願いしていただく場合もあります。新たなご負担をお願いすることはありませんが、入退院を通じて切れ目のない薬物治療管理が進むメリットも期待されますので、ご理解ご協力をいただければ幸いです。